

目的・背景

国内の交通事故による死者数は減少傾向にある一方で、オートバイ事故における中高年層の死者の割合は増加しています。

オートバイを安全に運転するためには技能が必要であるため、全国で安全運転講習会等が開催されていますが、中高年ライダーは体力的な制約から長時間の訓練が困難であり、技能向上には時間がかかっています。

事業概要

オートバイの各所にセンサを取り付け、運転中の車両挙動やライダーの操作、視線・姿勢などのデータを収集し、得られたデータを無線通信によりパソコン等に送ることで、リアルタイムで技能の可視化ができるシステムの開発を行っています。

システムを活用することで、自分がどのような運転を行っているか、他人と比較することで技能向上を支援することができます。

今後の展望

急制動や一本橋走行などの技能走行における熟練度による技能の違いを分析することで、効率よく技能向上できるデータを集約していきます。

交差点進入時の視線の動きなど公道での運転行動を分析し、事故防止に繋がる技能を明らかにすることで、交通事故の減少に貢献します。

実施主体	松江工業高等専門学校
実施場所	島根県運転免許センターの技能検定コース
活用技術	IoT
支援事業	公益財団法人JKA「競輪とオートレースの補助事業」

